

第四回里山ワークキャンプ in 庄原 報告書

2011年3月14日

里山ワークキャンプ in 庄原実行委員会

1) はじめに

ワークキャンプとは、第一次大戦後の1920年に、敵国同士であったドイツとフランスの青年たちが、相互理解の為に始めた活動が始まりです。現在は、地域年代を問わず、あらゆる層の参加者が各地域で1～3週間共同生活をしながら、地域の住民と環境保護・福祉・農村開発等、色々な種類のボランティアを行うプロジェクトのことです。

川北町においては、2週間かけて行うNICE国際ワークキャンプを2000年から2004年まで4回開催しました。また、土日にかけて行う週末ワークキャンプを、20回以上開催しています。活動場所は主に矢の原、黒田原周辺で、活動内容は間伐、枝打ちといった山林整備、その材を利用したベンチ（バスセンター、日赤等に寄贈）や木のおもちゃ（川北保育所に寄贈）作り、畦草刈り、炭窯を作った竹炭焼き、豆腐・こんにやく作りといった農山村の生活を体験するものになっています。また、海外の参加者がいたことから、川北小学校へ訪問しての国際交流、地域住民とのパーティーなども行われていました。

しかし、諸事情により2004年を最後に、NICE国際ワークキャンプを休止しています。

2) 事業の概要

2-1) 事業名	里山ワークキャンプ in 庄原
2-2) 開催期間	2011年2月11日～2月17日(7日間)
2-3) 開催地	広島県庄原市川北町
2-4) 事業目的	① 地域の課題(環境保全、農林業、過疎化、高齢化など)を、現場での体験を通して考えてもらう ② 地域の里山保全・整備につなげる ③ 参加者と地元の方が交流する事によって、地域の活性化を図る
2-5) 参加者	*ワークキャンプ参加者9名 *他のボランティア:多数(一日平均3～5人) 詳しくは、「3)参加者と協力者」を参照
2-6) ワーク内容	① 枝打ち ② 間伐 ③ 竹林整備 ④ 木工 ⑤ 里山散策
2-7) 他の活動	ディスカッション(里山の活性化について)、座学(林学について)
2-8) 生活方法	八谷家貸家にて宿泊・食事
2-9) 主催	里山ワークキャンプ実行委員会と北自治振興区の共催
2-10) 後援・協力	後援:庄原市、県立広島大学生命環境学部、中国新聞 協力:地域の方々
2-11) 財政	*参加者の開催地への移動費 :各自の自己負担 *開催中の宿泊・食費 :参加者の参加費、寄付、パーティーの参加費、積立金で賄う

3) 参加者・協力者

3-1) ワークキャンプ参加者 (全参加6名+部分参加3名)

名前	所在地	性	年	職業	備考
吉田 朗子	埼玉県	女	21	大学生 3年	
高橋 契匠	東京都	男	19	大学生 1年	
延命 直紀	神奈川県	男	18	大学生 1年	
佐々木 貴史	神奈川県	男	19	大学生 1年	
石井 春花	神奈川県	女	19	大学生 1年	
南 隼人	東京都	男	20	大学生 1年	
小池 拓司	広島県	男	25	大学院生	部分参加
吉田 翔	広島県	男	24	大学院生	部分参加
森本 千尋	広島県	女	27	社会人	部分参加

3-2) 里山ワークキャンプ実行委員

委員長 : 八谷恭介

委員 : 清水宣輝、植田朋子、大掛敬三、寺西玉実、佐竹英明、後藤ひろこ、後藤信彦、清谷勇蔵、森本千尋、高橋秀則、新山みわ、本庄博美、小池拓司、吉田翔

3-2) 地元の方々

住田鉄也、山脇信彦、桑原光雄、大掛芳寛、丸林進、酒井優、金丸等、坂部、滝口末彦、

3-3) 応援して下さった方々

早田保義、藤田泉、川北小学校、山内自治振興区、明治大学生田ボランティアセンター

(敬称略)

4) 開催前／後の大まかな流れ

4-1) 開催に到った経緯

明治大学の早田教授が、首都圏の学生に対して、里山の保全活動を行うことで、里山を通して見えてくる地域の課題（環境・景観保全、農林業の衰退、森林の荒廃、過疎・高齢化など）を考え、地域の自然や環境についての知識を深めることを目的とした農山村体験を提供したいという思いを基に、NICE の行っている国際ワークキャンプをヒントにして、ワーキングステイを 2008 年夏、2009 年冬の 2 回、黒田原において開催しました。その後、この動きを継続・拡大させ、地域と深く関わり盛り上げていくために、名称を「里山ワークキャンプ in 庄原」に戻すとともに、地域に溶け込んだワークキャンプを目指して、共催に川北町のある北自治振興区を迎え、募集を

明治大学だけでなく広く多くの大学、民間に拡大し、2010年夏に「第3回里山ワークキャンプ in 庄原」(ワーキングステイから継続してカウントしている為、国際ワークキャンプは含めない。)を開催しました。さらに継続的な動きとして安定することと、地域への認知度が上がることを期待し、初めて年度内で2回目の開催となる、今回の「第4回里山ワークキャンプ in 庄原」を開催しました。

4-2) 本事業の開催までと今後の大まかな流れ

いつ		何を
10年	11月	本事業の開催と事業の骨格(期間・人数・ワーク内容など)を決定
		参加者の募集・案内開始
		実行委員会始動
	12月	回覧で地域に告知
		事業の肉付け(ワークの場所・作業日を決定、宿泊施設を確保など) 後援依頼(中国新聞、庄原市、県立広島大学)
11年	1月	しおりを作成
		地域へのあいさつ回り
		タイムテーブル、準備物リスト作成
	2月	本事業の本番を運営(2月11日~2月17日)
	3月	事業報告書の作成
		地域への報告
保険申請		

5) 開催中の日程

5-1) 開催中の日程

日付	午前	午後	夜
2/11 金		集合、オリエンテーション	歓迎パーティー
2/12 土	林業ワーク(枝打ち)		フリー
2/13 日	竹林整備、竹パウダー作り		座学
2/14 月	林業ワーク(間伐)	茸植菌	フリー
2/15 火	木工		ディスカッション
2/16 水	冬の里山散策	お別れパーティー準備	お別れパーティー
2/17 木	解散		

6) 事業の狙いと成果

今回のワークの狙いは大きく3つありました。

- 1 地域の課題(環境保全、農林業、過疎化、高齢化等)を、現場での体験を通して考えてもらう
- 2 ワークを地域の里山保全・整備につなげる
- 3 参加者と地元の方が交流する事によって、地域の活性化を図る

これらの成果としては、

- 1 林業、竹林整備等の作業を通して、地域の森林の現状を確認してもらい、その問題点を感じ取ってもらうことができた
- 2 里山整備、竹林整備で地域の環境保全に貢献できた
(里山整備：約20年生桧約0.5haの間伐・枝打ち、竹林整備：竹約110本の伐採・粉末化)
- 3 作業の最中や休憩中に地元の方が声をかけに来てくれたので、交流が頻繁に行われ、準備期間、開催期間を通して、地域がにぎやかになったという実感があつた
(交流人口：延べ49人 地域関係者：延べ72人)

7) 提言と今後の構想

今回のワークキャンプでは、ほとんどが実行委員会のみを中心にして企画運営したため、比較的小規模コンパクトなものになったという感想です。

企画段階では計5回の実行委員会を重ね、委員会の中での企画の共通理解と、内容の練りこみという部分が充実したため、運営に関して、それぞれの共通理解の中で進めることが出来、当日の動きを効率的にすることが出来ました。

これは、自治振興区と共催という形をとりながらも、規模を抑えながら運営していく事が出来るという点で、運営サイドに柔軟性を産むことができ、この先のワークキャンプの発展性の一助になると言えます。

ワークの内容としては、全体の目的、趣旨を明確にし、里山と林業という絞った内容で行えました。また、前回の反省を活かし、ワークに入る前にミーティングをし、その中でワークの作業の意義と注意点を参加者に伝えていけたことから、ワークに対しての参加者の理解度が高まり、充実したワークになったものと思います。

モチベーションは全員高く保たれていて、作業をする上では非常に楽に進めることができ、予定した以上の作業量をこなす事が出来ました。作業量自体も適度にきつい程度で、全員ばてることも無く最後までやりきれていたのも、ちょうど良かったと思います。

また天候が悪く、作業中に体が冷える状態が続いたのですが、キャンプ中に体調を崩す人もなく、全員が最後までよい状態で過ごすことができました。

また、明治大学のボランティアセンターとのコネクションも強くなり、来年度の活動も期待されていることから、うまくそのコネクションを利用し、ワークキャンプのさらなる充実と発展につながる協力体制を作っていけたらと思います。

今回のワークキャンプでは、期間中、庄原の方に指導者や講師として入っていただき、またワークの参加者として、地域の班長の方や自治振興センターのセンター長さんらにさんかしていただき、また、竹イベントで作った竹パウダーを周辺地区の方に利用してもらえているので、だんだんと地域の中に馴染んできたという手ごたえを感じています。

ただ、十分かというはまだまだと思うので、次回にはさらに早くからの地域への告知をし、参加者を増やしてもっといろいろな地域で活動できる余裕を作っていくこと、そして何より回数を重ねて地域にワークキャンプというものを浸透させていくことが重要になってくると思います。

そのためにも、これから継続していけるような体制作りを進めていく必要があります。委員の皆様にはこれからもお世話になる事が多いと思いますが、なにとぞ宜しくお願いします。

8) おわりに

今回のワークキャンプは、初めて年度内で2回目の開催という、かなり実験的な行いにはなりましたが、ワークキャンプとしては、十分な内容と結果であったと思います。

この流れをうまく活かし、来年度以降のワークキャンプの開催、充実、発展に繋げていければと思います。そのためにまだまだやらなければいけないことは山積みですが、一つ一つクリアしていこうと思いますので、これからもよろしくお願いします。



1



2



3



4



5



6



7

写真

- 1、2/11：初日に餅つき 2、2/12：森で枝打ちワーク 3、2/13：竹林整備ワーク
4、2/14：間伐ワーク 5、2/14：間伐材の枝打ち 6、2/15：間伐材利用としての木工
7、参加者、スタッフと地元の方と記念撮影